

—今回の琴丘サッカーだよりはエストレラ特集—
エストレラジュニアユースが
ついに全国へ

立ち上げて10年、ついにエストレラジュニアユースが全国へ出場する。
第25回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)関西大会においてベスト4へ
進出。ついに全国クラブユースサッカー選手権の出場を決めた。

嬉しい、ホンマに嬉しい。3年前にエストレラユースがJカップに出場し東京ヴェル
ディと読売ランドで戦った。あの時も嬉しかったが、今回もまた格別。

俺は姫路の中学生年代(ジュニアユース)がズブと気になっていた。少年チーム
を立ち上げ高校サッカーにはまり没頭すればするほど姫路の中学生年代がプアーであ
ることが、、、一番うまく伸びる中学生年代を強化し兵庫県はもちろん全国レベルで
通用する中学生を育てたいと長年の願いを持っていた。

そして思いを決め10年前にエストレラ(希望の星)を立ち上げた。しかし当時は、
いや今もいろんな人達や各方面から反対や非難も受けた。あからさまにエストには反
対という人々のいることも確か。でも俺はこれから将来は中体連からクラブチームの
時代だと思いセレクション(選考)を実施して最強のチームを作り姫路の子どもでも
全国に通用するチームをと信じてスタートした。今年で10周年。

長いようで振り返れば早かった。やはり10年いろんなことがあった。福崎高の卒業
生で教師、監督として山崎高そして太子高校で兵庫県上位に進出し好選手を育成して
いた前田先生に琴丘高に来てもらい、2年あまり二人で夢を語りできる限りの準備を
して、そしてエストレラの運営、裏方または多方面に渡り支えてもらった。事実上の
経営をしてもらい大変なNPO法人の資格まで前田先生には取得してもらった。

そして最も重要なスタッフには福崎高サッカー部卒で高校時代主将であった清水靖志
を指導の軸に、副将であったスクールを木村祥典に任せ、各方面を主将経験の中山に
頼み、運営面では前田先生の補助をこれまた副将経験の森啓三郎にお願いした。
教え子の中で最高の生徒たちが当時勤めていた仕事を辞めてまでエストレラに全てを
捧げる気持ちでついて来てくれた。3年後にユースを立ち上げ、当時飾磨高校サッカ
ー部の顧問だった松本先生が監督に就任され木村理史がアシスタントに創部7年目に
して一足先に全国への舞台に立った。

そこにJFLを経験した前田先生の教え子である溝口がGKコーチとして就任。

さあこれでエストレラは土台もでき体制も整った。

「さあ充実期を迎え、飛躍の時期へ」ってスタッフは息込んだが、、、

なぜかエストレラジュニアユースを卒業した後はユースへは上がりず姫路の高体連チ
ームへ入る選手が続出。これには俺は大ショック!!「何で? どうして折角エストで
得た貴重な体験、経験を次の夢舞台をめざして高いレベルで勝負しない?? 不思議や
、、、それよりもったいない」

高い志(こころざし)大きな希望や夢など最近の子どもは描かないのだろうか?

どうして中学年代で自分の能力を決めてしまう? 人間は大器晩成なのに。これからす
っごい世界へ行けるのに、、、よくわからない?、、、

しかもっと苦しいのは俺より現場にいるスタッフ。自分の教え子を信じて疑わずに
必死に子どもと向き合って寄り添ってきたスタッフの気持ちを考えると。。

俺が教えた福崎高時代の生徒や親からは考えられないことが普通のように起こる。
時代の変化か、社会の流れか、親の考えの相違か。いっぱいやることの多い選択がで
きる最近。でも迷わず悩まず一つのことを決めたら何が何でもやり抜くことが大事で
はないのだろうか。無心で人生で一番頑張れる年代に、ちょっと遠いとか時間が大変
勉強や他にしたいことがあるからと理由、理屈をつけるが、、、苦しくて辛くて泣
きながら青春を過ごすことが大人になってももの凄いか、パワー、財産になるのに。

夢は叶った、神様は見ていた。

そんな思いの中、苦しみの中でのエストレラジュニアユースの全国出場！！
ほんとうに良かった。何より清水が救われた。辛く苦しかったやろう清水が、、、
これだけまじめにがんばり、子どものために必死にサッカーを通じて子どもに経験と
いう宝物を与え続ける清水によく悪戯(いたずら)する神様にご褒美をくれた。
清水には「俺のそばにいたら俺と一緒にずっと2位とかあと一歩で終わるぞ」と
よく言ったもんだ。するとある日清水が「先生、でも、あと一歩であと少しで悔し涙
があったからこそそんなメンバーが集まりアマチュアで日本一になりましたよ」って
返してくれたけど。そう振り返ればその全国優勝メンバーは清水や森をはじめ、監督
をしていた三木陽介や津田の少年やJrユースのスタッフが大多数。やはり夢をあきら
めず、引退後もまた少年のために身を粉にして指導しているメンバーや。
そうは言ってくれても俺には少年も高校も準優勝の「準」が絶えず付き回る。
準と優勝とは大違いホンマに違う扱いも「準」は時と共に簡単に忘れられるもの。
頂点に立てば景色が違う。頂点に立たないことには向こう側も全パノラマの絶景も見
えない。世間の評価が違う。いくらいい指導をしても「全国」という文字は強い。
残念ながらその苦しみはイヤという程俺は味わった。高校サッカー界でもよく言われ
たものだ「やはりいい選手を集めないと勝てないで、全国へ行けないで」って。
やはり俺と同じ境遇を清水は10年繰り返した。辛かった、苦しかったと思う。

いろいろな方面からたくさんの人々から

お祝いメールが届く。試合の状況が入ってくる。津田少年の三人も頑張っている。
姫路在住の子の多くがJ塾生として琴丘サッカー部と共に過ごした子どもたちや。
その一人の下田優作が同点ゴールを決め追いつきPK戦で神戸FCを下しついについに
歓喜のベスト4進出、全国のきっぷを手にした。
そのあとのメールのほとんどが勝利の瞬間、選手、監督、コーチ、応援、父兄全員で
号泣で感動！感動！感動の嵐。
誰もが清水の涙が忘れない「清水の苦労が実った」と。伝えてくれた。
スタッフ全員で抱き合った中で、この10年の重みをお互い感じたそうだ。
今までは関西で5つめの全国への席を何度も争いあと一歩の苦い経験をしてきた。
今年の5つめもガンバ大阪、京都サンガ、ヴィッセル伊丹、フレスカ、神戸FCなど
強豪8チームで一つを争う。今年の4強はヴィッセル神戸、セレッソ大阪、ガンバ大
阪門真という全国でも優勝候補の価値ある凄いレベルの4チームに入った。
エストレラジュニアユースの子たちはむずかしい中学年代でもまじめに戦う姿勢や人
としては育っている。挨拶一つにしても「素直な心」と「笑顔」で対応できる。
気持ちがいいしまじめであるとの周りの評価も高い。これが俺は嬉しい。
そこに足りなかった実績と結果がやっと追いついた。
これで姫路も捨てたものではないことがわかった。
わざわざ神戸や他地域や遠くのチームに行かなくても十分にやれることが実証できた。
姫路の少年たちに夢を与えた。僕たちもがんばればガンバやサンガ、ヴィッセルや
セレッソらのJクラブとも十分に争える。そして全国ではマリノスやグランパスなど
と福島Jヴィレッジで対戦できると思うのは絶対がいい。遠い世界の「夢物語」であ
った少年たちが自分たちの先輩たちがそんな場に出れることを身近に感じることで
より頑張れると思う。だから「全国」は凄い。あらゆることをつなぎ次代の若者に強
烈な印象を残す。だから「全国」へ行かないといけない。
この琴丘サッカーだよりを津田とエストレラのホームページに掲載するわ。
琴丘のおまえたち以外の多くのエストレラや津田や俺のことを支えてくれた人々への
お礼を込めて、またこれからエストレラのファンになってくれる方々のために載せたい
と思う。琴丘のおまえたちも凄い刺激をもらったな。あきらめることなく夢に向か
って努力し続けよう。将来の俺の大きな夢である姫路の次の夢であるJFL入りをめ
ざすのは(琴丘卒、津田卒、エスト卒)の三つのOBの合体で、その時は俺が監督し
たいなあ。津田の40周年記念(あと4年先)は無理やろうか？大丈夫やない！
とにかくいろんな人々のおかげで「全国」へ。ありがとうございましたしかない。